

地下鉄スバ 民営化条例案継続に

大阪市営地下鉄・バスの廃止・民営化を狙う橋下徹市長が、市議会（29日閉会）での可決を求めている市営としての両事業の廃止条例案が28日、「維新の会」以外の全会派によって継続審議となることが決まりました。

大阪市議会

市営交通の民営化は、黒字の地下鉄を関西財界に差し出し、地下鉄が支援してきた市バス路線を43路線も削減したうえで民間に売却するもの。橋下氏による「大阪都」構想（大阪府つづし）を具体化するための柱の一つですが、世論に押された議会の判断で挫折と出直しを余儀なくされた格好です。

廃止条例の可決には市議会（定数86）の3分の2以上の賛成が必要ですが、民営化に反対してきた日本共産党（8人）に加え、民営化の必要性は認めている公明（19人）、自民（17人）、民主系（9人）

の3会派が「議論が足りない」などとして継続審議を要求。交通水道委員会でも継続が決まりました。

日本共産党は、民営化を美化する市側の宣伝のデタラメぶりを明らかにし、市営交通の目的である「公共の福祉の増進」を追求する立場で地下鉄・バスの市営一体運営を進めてこそ市民の移動手段を守り、安全対策やサービスの向上が図れると主張してきました。

関西財界からは「民営化の決断を先送りするな」と市議会に向けた提言や要請が相次ぎましたが、「大阪市をよくする会」に加わる

市民とスクラム たたかいさらに

各団体などが「市民の足を守れ」と大量宣伝したことが世論にも影響を与え、他会派の態度を慎重にさせる要因になりました。

橋下市長は27日、地下鉄料金値下げについて「民営化が成立しなかったらできない」などと発言。来年4月からの初乗り料金値下げ



「住吉市民病院廃止条例は否決してください」と宣伝する「充実させる会」の人たち＝28日、大阪市

住吉市民病院

「廃止条例案」可決強行

維・公・自・民主系賛成 市民と共産党が抗議

橋下徹大阪市長が強引に進める住吉市民病院（住之江区）の「廃止条例案」は28日、市議会常任委員会でも日本共産党を除く賛成多数で可決されました。

橋下市長が、7万人を超える現地存続を求める署名を「ミクロの声」と黙殺しただけでなく、存続を求める市民の声に押され、「反対」を表明していた公明、自民、OSAKAみらい（民主系）も賛成した。



現地建て替えへ 運動を最後まで

住吉社会保険推進協議会事務局長の田中勝さん 統合先

公立病院で存続 地域に絶対必要

西成区で存続署名に取り組んだ香田法子さん 西成



して現地に残すよう求めていく」と力を込めました。委員会審議の前に、「充実させる会」が市役所前で宣伝。雨をうけて「市議会は住民の願いに誠実に応えて、廃止条例案を委員会でも本会議でも否決してください」と力強く訴え、通行人が次々にビラを受け取りました。日本共産党の北山良三市議団長があいさつしました。

ビラを受け取った20代の男性は「橋下市長は『大阪都』構想で公立病院をつぶしたり、地下鉄を民間に売却するとしていますが、そんなことをしたら大阪は終わってしまう」と憤っていました。

産期の病院が必要です。公立の病院としてしっかりした役割を果たしている住吉市民病院の廃止は断固許すことではできません。

29日の市議会本会議でぜひとも否決し、現地建て替えを実現してほしい。住民の声を無視して廃止をすすめることは許せません。最後まで現地建て替えを求めて運動していきます。

市民病院がなくなると説明すると、みんなびくびくして、病院がなくなればどこで産み育てたらいいのか、この街を出ていかないといけないのかと不安の声があがっています。

「廃止条例」が可決されたとしても、公立病院として残す運動を続けていきたい。住吉市民病院は、地域に絶対必要な病院です。